

引き継いだ都市をより良く次世代へ  
暖かい支援カンパにありがとう

(福島地本)

2012年1月1日 この都市を、私たちが引継いだ時より、より偉大に、より良く、そして美しして次世代に残したい。

東日本大震災の発生と原発事故からまもなく十ヵ月、福島県民は毎日発表される放射線の数値を気にしながらの新年です。

去年は全国の仲間の皆様からの暖かい支援カンパ等をいただきましてありがとうございます。福島県は、農林漁業で生計を立てている人が数多くいます。震災と原発事故で農産物が「福島県産」の表示があると正当な価格で売れないこともあり、県内の経済が非常に疲弊しつつあります。また、観光関係についても温泉地のホテルや旅館の建物が破壊され、金融機関からの融資が原発事故の風評被害で受けられず、自主廃業をしています。震災後に福島県から県外に避難している方が六万一千人と、福島県民の3%を占めています。完全に放射性物質を除去されなければ、人が住めず、雇用も生まれません。特に、警戒区域と計画的非難区域で事業の債権を待って待機されている方々を雇用し続ける事業所の社会保険料の納付猶予（免除）期間延長を求める声があります。警戒区域内にあり。加盟組織がある二事業所の支部分会から強い要望が上げられています。県内のホテル、旅館も震災被害の少なかった所では事業の再開になりました。タクシーも地域的には營收の大幅な増収となりましたが、今は落ち着いて、従来 of 姿になり、厳しい年を向かえています。最後に「私たちはこの都市を、私たちが引継いだ時よりも、損なうことなく、より偉大に、より良く、そして美しして次世代に残します」古代ギリシャのアテネ人が新たに市民になる際の誓約」です。わたしたちもそう思います。